



柔軟仕上げ剤の上手な使い方

衣類をふんわり柔らかく仕上げる柔軟仕上げ剤。経済産業省の統計資料によると、2018年の販売数量は約37万トン。ここ10年で約1.5倍に増加しています。増加要因としては“香りブーム”により香りを特徴とした製品が増え、新たに柔軟仕上げ剤を使用する人が増えた、使用頻度が増えた等が考えられます。

日本石鹼洗剤工業会が行った「洗たく実態調査2015」によると、洗濯の度に柔軟仕上げ剤を使用する人は約77%に及び、いまや日常生活に欠かせない製品となっています。一方で適正な使い方が成されないことによるトラブルも増加しています。



使用量の目安を守って使う

最も大事なことは、製品に記載されている使用量の目安を守って、適量を使用することです。柔軟仕上げ剤の基本的な効果に、衣類を柔らかく仕上げる柔軟効果、静電気の発生を防止する静電気防止効果があります。柔軟仕上げ剤はお洗濯の最後のすすぎの時に使いますが、柔軟剤の主成分の陽イオン界面活性剤は繊維に吸着しやすい性質があり、繊維表面を効率よく覆います。柔軟仕上げ剤の成分で覆われた繊維は、摩擦抵抗が少なくなり、繊維同士がすべりやすくなるため、ふんわりとなめらかな仕上がりになります。また、電気を外に逃がす働きがあるので静電気の発生を防ぎます。このような効果を効率的に発現する様に柔軟仕上げ剤の使用量は設定されています。使用量が少なすぎると効果が十分に現れません。逆に、多すぎた場合は柔軟成分が過剰に繊維に吸着し、衣類の吸水性が損なわれてしまうこともあります。余分な柔軟剤は洗剤で落とせますので、吸水性の低下が気になった時は、しばらく柔軟剤を使わずにお洗濯すると回復します。回復後は、柔軟剤を適量でお使いください。

柔軟仕上げ剤の香りトラブルに注意

柔軟仕上げ剤には、衣類により香りを付ける効果を謳った製品も数多く販売されています。心地よい香りは快適な暮らしづくりに役立つ一方で、「他人の衣服や隣家の洗濯物の香りを不快に感じる」といった意見があるのも事実です。香りに特徴のある柔軟仕上げ剤を使う時は、香りの感じ方は個人差が大きいことを念頭において、周囲に配慮しながら適切に使うことが大切です。

同じ柔軟仕上げ剤を使い続けると、香りに慣れて弱く感じるようになり、つい使いすぎてしまう場合がありますので要注意です。

部屋干し臭が気になって柔軟仕上げ剤を多目に使ってしまった場合は、除菌効果や抗菌防臭効果のある洗剤で洗う、洗う時に漂白剤を加えるなどして、臭いの発生を抑えることで使いすぎを防ぐことができます。また、すすぎにお風呂の残り湯を使うと、洗濯物に汚れが付着して臭いの原因になるので、最後のすすぎには、必ずきれいな水道水を使うようにしましょう。

職場、学校など、特定の空間に多くの人が集まる場所は不快に思っても回避しにくい状況にあり

ます。香りに敏感な人がいる場合は配慮する必要があります。香りの強いものは控え、TPO（時・場所・場合）に合わせた香りを選ぶようにしましょう。

干している洗濯物の香りで近隣から苦情を受けることがあります。自分では問題ないと思える香りでも、周囲には強い香りに感じられることもあります。このような時は、近隣の方の話によく耳を傾けて、積極的に協力するようにしましょう。

今やお洗濯に欠かせない柔軟仕上げ剤。マナーを守って上手に使いましょう。

参考にした情報

1) 「柔軟仕上げ剤の香りに関して」、日本石鹼洗剤工業会

https://jsda.org/w/01_katud/jyuunanzai_kaori.htm

2) 「2015年洗濯実態調査」、日本石鹼洗剤工業会、

https://jsda.org/w/01_katud/sentaku_chosa2015.html

3) 「柔軟仕上げ剤のにおいに関する情報提供」、独立行政法人 国民生活センター、

http://www.kokusen.go.jp/pdf/n-20130919_1.pdf

